HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	目撃証言の信用性判断に関する研究 : 模擬裁判員の判断過程に着目して [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	名畑, 康之
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第11181号
Issue Date	2014-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/55619
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Yasuyuki_Nabata_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：名畑　康之

審査委員　主査　教　授　仲　　真紀子
　　副査　教　授　川端　康弘
　　副査　教　授　結城　雅樹

学位論文題名

目撃証言の信用性判断に関する研究−模擬裁判員の判断過程に着目して−

証言の信用性に関する先行研究では，証人の属性が一般的である場合（e.g.，成人，健常者）と特殊な場合（e.g.，子ども，障がい者）とで，その証言の信用性の判断に差が生じることが示されている。しかし，こういった差違が生じる過程については十分な研究がなされてこなかった。そこで本研究では，目撃者の属性に焦点を当て，属性の違いが証言の信用性の判断に及ぼす影響を，実験心理学の手法を用いて検討した。特に，属性の違いによって生じる証言の信用性判断の差違を，「判断された信用性の『ずれ』」と定義し，ずれが生じる過程を，判断者の情報処理スタイル，ならびに裁判に関連する状況要因との関連で明らかにすることを目指した。また，文化比較も行い，特定の文化的背景における情報処理スタイルの役割についても検討した。

以下，当該研究領域における本論文の研究成果について本審査委員会の評価を述べ，その上で審査結果を述べる。

１）当該研究領域における本論文の研究成果

本研究の成果として，以下の 3 点を挙げることができる。

第一に，これまで十分な検討が行われてこなかった，証人の属性による証言の信用性判断過程に焦点を当て，信用性のずれに影響を及ぼす要因を示したことが挙げられる。日本人の参加者においては，具体的な証言内容が示されない状況，時間的制約がある場合において，判断者が一定の知識をもっていると推定される証人に関し，ずれが生じやすいことが示された。

第二に，証言能力に関する質問紙を行った条件や，専門家証言を行った条件では，情報処理スタイルの差が生じなかったことを確認したことが挙げられる。差が見出せなかったことは，差がないこととは異なる。しかし，証人の属性について個別具体的に考えさせることは，情報処理スタイルの差を低減させる可能性を示唆している。

第三に，分析的な処理が求められる裁判での判断過程に焦点を当て，独自の処理モデルを打ち出すとともに，個人の情報処理スタイルを，広く文化との関連で検討する必要性を示したことが挙げられる。本研究の成果は，他国のデータを日本における研究にそのまま適用することには慎重であらねばならないことを示している。

２）学位授与に関する委員会の所見

以上のことを踏まえ，本審査委員会では全員が一致して，博士（文学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。